

★リベラル国際秩序後のアジア＝アミターブ・アチャーヤ

トランプ米大統領の選出によって西側は突然目を覚まされ、米主導のリベラル国際秩序の行末に深刻な不安を抱いた。それまで米国の支配層はヒラリー・クリントンがオバマを引き継いでリベラル秩序を確実に引き継いでくれると思っていた。秩序が危機に陥り衰退しているとの警告を無視し斥けていたのだ。

リベラル秩序とは何か。それは第二次大戦後に米国が作って運営した国際システムである。同盟や多国間機構の構築によって資本主義と民主主義を促進するものだった。支持者たちは、その秩序は開かれた、法を基礎にした多国間システムであり、強制ではなく合意によって運営されていると伝えてきた。

これはまったく利己的で歪められた見方である。実際は、リベラル秩序とは西側のクラブのことなのである。他の諸国には、市場アクセスとか援助や投資、安全保障の傘の提供といった恩恵は、選択的に条件付きで提供された。中国やインドなど開発途上の主要国はシステムの外に置かれ周辺と結びつくだけだった。

その秩序は合意どころか強制をともなって運営されることがしばしばだった。第三世界にとっては「規律正しい」とはとてもいえたものではなく、地域紛争は米国や西側同盟国など大国による気まぐれ的な介入によって拡大した。

トランプの登場が示したのは、このリベラル秩序への挑戦が外部からと同様に米国内部からもおきているということである。トランプはリベラル秩序の危機の原因ではなく、むしろ結果なのである。リベラル秩序の衰退と分裂はトランプ政権以前から始まっている。中国や他の非西欧諸国の興隆による世界経済の構造変化によるものだ。世界貿易の成長が鈍り、世界貿易機関（WTO）は時として瀕死の状態に陥った。米国の有権者のかなりの部分がすでに自由市場と自由貿易に幻滅を感じていた。トランプはこの感情を煽り利用したが、起源は彼の出世以前にあったのである。

トランプの政策はリベラル秩序を断崖に近づけている。彼は自由貿易と多国間主義への米国の決意をとてつもなく弱め、世界中でポピュリストや権威主義的な支配者たちを元気づけている。トランプはメルケル独首相やメイ英首相より、プーチンや金正恩と馬が合うように見える。

アジアは戦後の長い間、リベラル秩序のグレーゾンだった。地域には「東アジアのタイガー」のように輸出主導の成長戦略や米市場へのアクセスから恩恵を受けた諸国もある。

しかし東アジアの資本主義は、国家の強い手によって調整されていた。民主主義は乏しく非自由主義的で、一党支配やごまかしの選挙、中身のない市民的自由などが目立った。米国はアジアでは地域の多国間機構の発展には冷淡で、二国間同盟によるハブ・アンド・スポークのシステムに力をいれた。ASEANはアジアでもっとも成功した多国間機構だが、米国からの何の支援もなしに設立された。リベラル秩序によってというより、それを差し置いて生じたのだ。

リベラル秩序にトランプがどんな影響をあたえるか、しばらくはわからないかもしれない。今の時点ではトランプ政権がどれだけ続くかわからないし、弾劾に直面するかあるは再選挙に臨むかどうか、その場合に再選されるかどうかもわからない。外交政策への彼のアプローチはTPPの逆転のように一貫性がないので、トランプ政権が世界秩序にどう影響を与えるかの予測は警戒を要する。

気まぐれなトランプ政権がどうなろうと、リベラル秩序は存在にかかわる課題に直面している。その要素は残るだろうが、かつての支配をおう歌することはないだろう。リベラル覇権の時代は過ぎ去り、他の興隆が現実になった。アジアは冷戦以来、長い道をすんできた。主要パワーの中国とインドは開放経済を取り入れた。そして地域にはASEANを中心にした一連の多国間機構がある。しかしアジアの諸大国は、一部の人たちの望んでいるようなリベラル秩序の救世主にはならないだろう。

中国はリベラル秩序を支持すると約束したが、それは経済的かつ組織的な側面、とくに貿易や投資に関してだけのことのようにだ。中国は民主主義や人権といったリベラル秩序の政治的な基礎は支持しない。経済の面での成功が部分的であっても、中国の政策は世界の貿易と投資、開発の形態を変えるだろう。長期的には、ユーラシアとそれを超える地域に中国主導の国際秩序をつくるだろう。

西側を助けてリベラル秩序を再建するかわりに、アジアはちがったタイプの世界秩序への転換をリードするだろう。リベラル秩序の残滓は中国主導の秩序や他の地域秩序と折り合いをつけなければならない。私はそれを、中心が偏在するポスト覇権の「多極世界」とよぶ。

そういう世界でも紛争がなくなるわけでない。しかし新旧の相互依存形態や地域秩序間の諸体制、このなかには気候変動や感染症、テロのような国境を越えた共通の課題への対応が含まれるが、それによって紛争はやわらげられるだろう。こういう見通しは多くの西側専門家たちが米主導の秩序の終焉の結果として予測する混乱と崩壊といった終末期のシナリオよりもはるかに筋が通っている。彼らは以前も間違っただけで、再度まちが

っているようだ。(了)

7月10日 **East Asia Forum** に掲載。筆者はワシントンのアメリカン大学教授、近著に「米政界秩序の終焉」(2018)